

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	工業地域の再生と「豊穰化の経済」 ー場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステム
研究代表者	小関 珠音（大阪市立大学 都市経営研究科 准教授）
共同研究者	藤田 和史（和歌山大学 経済学部 准教授） 立見 淳哉（大阪市立大学 経営学研究科 教授）
研究成果	<p>本年度は、コロナウィルス感染拡大の影響により、出張が大幅に制限されたため、フィールドワークは限定的となった。その状況下においても小関は、山形県寒河江市の佐藤繊維株式会社に対し、経営に関するヒアリングと工場視察を行い、立見との共著論文を準備中である。またアーティストのオオタキヨオ氏の活動現場でのフィールドワークを実施し、日本におけるアート市場における価値付けについての示唆を得た。また、海外との行き来は全面的に不可能であったものの、本学と大学間提携及び部局間提携（先方：経済経営研究科、当方：都市経営研究科）を締結しているパドバ大学 Silvia Rita Sedita 准教授と小関とは、京都友禅染のデジタル化について国際学会にて二つめの研究成果（Ozeki & Sedita, 2020b）を発表し、さらに欧州学術誌へ論文を投稿し、フィードバックを得た。</p> <p>立見は、フィールドワークの制限があったものの、第一に、豊穰化の経済における価値づけの仕組みについていくつかの事例を通じて検討を深めた。また、第二に、価値づけ研究からの地域再生を考察する上で重要な論点となる、価値の分配をめぐる問題について社会連帯経済とその日本的文脈への応用を中心に考察した。第一の点については、小関の佐藤繊維の調査とも密接に関わるが、豊穰化と価値づけの観点から、日本のアパレル産業の再編に関する研究を進めた。デニムブランド「Every Denim（2020年10月から「Fukuen」）へのインタビュー等を実施し、新しい価値づけ様式の出現を考察している。第二の点に関しては、脱工業化都市が「豊穰化の経済」の時代において地域再生を果たす事例として、フランス・リール地域の社会連帯経済に関する研究を書籍としてまとめた（立見淳哉・長尾謙吉・三浦純一, 2021）。同書は社会連帯経済に基づくオルタナティブな地域経済の探求を主題としているが、地域への価値づけとその民主的なガバナンス、さらに価値の公正な分配という点において、本研究とも密接にリンクするものである。また関連して、日本の「田園回帰現象」への社会連帯経済の応用を探る研究を行なった（立見, 2021; 筒井・立見・佐久間, 2021）。</p> <p>また、これらの二つの研究を架橋するテーマとして、丹波篠山市における「観光まちづくり」に基づく地域活性化をさらに社会連帯経済を手掛かりに新しい地域経済の構築へと発展させる実践をアクション・リサーチ的に調査した。「観光まちづくり」は「豊穰化の経済」における価値づけの典型的な事例であるといっているが、それをさらに、民主的ガバナンスの導入（企業の公共空間化）と価値の公正な分配を組み込むことで、オルタナティブな地域経済へと拡張させる試みである。</p> <p>藤田は、産業集積地域において、地元工業高校が人材育成・起業人材排出に果たす役割について、最盛期の1/2にまで規模を縮小しつつある長野県諏訪地域を事例に調査・検討した。卒業名簿から諏訪地域の工業高校機械化卒業の生徒の進路を分析し、少数ながらも卒業時点において家業を承継し、集積の維持に一定の役割を果たす生徒があることを確認した。また、これらの卒業生が一定期間を経過した後、起業・独立創業を果たすなど起業家として成長をしているのか、現在追跡調査を行っている。今年度は、昨年度に続き複数年度の傾向を分析しており、同様の傾向があることを確認した。今年度は、他学科の傾向について比較検討を実施する予定であったが、現地調査によるデータ採取が実施できなかったため、次年度に実施する予定である。</p> <p>上記の検討を進める一方で、藤田は産業のエコシステムについて、風土産業の観点から、和歌山県内でのブドウハゼ実の栽培復活と利活用に関する検証を開始した。ブドウハゼ原木の再発見から、地域での栽培復活、普及のための産業化、そして地域内外の資源・アクターの結合による産業複合体の形成に関して、先進地である</p>

愛媛県内子町、福岡県久留米市などの調査検討を進めている。

著書名/論文名/発表タイトル 等	発表年	出版社名/掲載雑誌名/学会名等
Tamane Ozeki, Silvia Rita Sedita “The revenge of the kimono cluster: pathways to revitalize the cultural heritage through digitalization”	2020	3rd International Congress on Cluster Research (2020年11月24日)
小関珠音「革新的科学技術を基盤とするベンチャー企業の資金調達に関する一考察」	2020	研究・イノベーション学会(2020年11月1日)
和泉亮、小関珠音「障害者雇用が生み出す多様性の価値についての研究」	2020	研究・イノベーション学会(2020年11月1日)
仙波慎二、小関珠音「意味のイノベーション創出における批判精神の効能に関する一考察」	2020	研究・イノベーション学会(2020年10月31日)
立見淳哉「『豊穡化の経済』における地場産業製品への価値の再付与」	2020	進化経済学会静岡大会・オータムカンファレンス(2020年9月19日), 於: 静岡大学(オンライン)(招待講演)
立見淳哉・長尾謙吉・三浦純一編『社会連帯経済と都市: フランス・リールの挑戦』	2021	ナカニシヤ出版
立見淳哉「社会連帯経済と『田園回帰』の接点を探る」筒井一伸編『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係ー現場から理論までー』	2021	ナカニシヤ出版, pp. 180-206
筒井一伸, 立見淳哉, 佐久間康富「田園回帰とネオ内発的発展」筒井一伸編『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係ー現場から理論までー』	2021	ナカニシヤ出版, pp. 207-225